

(様式1)

自己評価表

愛媛県立松山北高等学校中島分校  
学校番号 23

教育方針	自律・進取・敬愛を重んじ、豊かな人間性と社会性を養うとともに、個性や能力を生かす教育の充実を目指し、平和な国家社会に貢献できる国際感覚豊かな人間を育成する。	重点目標 平成24年度	社会貢献できる人材の育成 — 感謝から自立と共生 — 1 基本的生活習慣の確立を通して、自律心の育成に努めます。 2 体験活動の実施と部活動の充実により、豊かな人間性と社会性の育成に努めます。 3 基礎・基本の定着を図り、個性の発見と伸長に努めます。 4 能力・適性に応じたキャリア教育を推進し、進路実現に努めます。
------	--	----------------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	適切な教育課程の編成	生徒の適性・能力・進路に応じた教育課程を編成する。	A	基礎・基本の徹底を図り、生徒の適性等に応じるよう検討し、改善に取り組んだ。	生徒の能力適性に合うように、新教育課程の実施後の成果を分析・検討する。
	保護者・地域との連携	学校案内、分校通信、ホームページ、生徒会誌「み津ばち」などで教育活動の紹介発信に努める。	A	ホームページは連日全校生徒数の倍程度のアクセス数を記録した。	進路指導と生徒指導について、保護者に対してより適切な情報発信を行う。
		PTA 活動(総会・研修旅行等)への参加者増を図る。	B	総会・奉仕活動は現状維持に留まったが、研修旅行では参加増となった。	参加者増のためにより参加しやすい工夫と情報発信を行う。
		地域での奉仕活動を年間8回以上実施する。	A	1年間の学校教育活動全体を通した奉仕活動に生徒は熱心に参加した。	地域に必要とされる学校となるための活動の一環ととらえて、取組を工夫する。
危機管理	学校安全に関する研修や点検を適宜実施し、事故の未然防止や対応に努める。	A	防災マニュアルを一から見直し、いざというときに役に立つよう改善した。	防災マニュアルのより一層の改善と、教職員研修の充実を図る。	
学習指導	教科指導の充実	個に応じた指導の工夫・実践により、生徒にわかる喜びと意欲を持たせる。	A	生徒による学校評価が昨年度よりアップしており、成果が出ている。	学習意欲の喚起につながる個に応じた課題の工夫と改善を行う。
		卒業時に全商検定3種目以上合格率80%以上を目指す。	B	上位級の合格を目指した結果、3種目以上の取得は50%程度に留まった。	授業を通じて資格試験に対する意識啓発を行い、目標の明確化を図る。
	家庭学習の充実	個に応じた学習課題を持たせ、一日平均2時間以上の学習時間を確保する。	D	年平均1日105分で、約33%の生徒が1時間未満の家庭学習時間となっている。	学習意欲の喚起につながるように生徒の能力に合った課題の工夫と改善を行う。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立を通して、年間出席率95%以上を目指す。	B	2学期までの出席率が約96%であり、ほぼ達成できている。	生徒自身による、自律的な基本的な生活習慣の確立を図る。
		あいさつができる生徒100%を目指す。	B	学校関係者評価委員会では、よい評価であった。	自分から積極的に地域の人等に挨拶できる態度の育成を図る。
		身だしなみが守れる生徒100%を目指す。	B	ほとんどの生徒が頭髪・服装の規定を守ることができている。	教職員の共通理解を深め、対象となる生徒に丁寧な指導を継続的に行う。
		清掃にまじめに取り組める生徒100%を目指す。	B	多くの生徒が責任を持ってまじめに取り組むことができている。	基本的な清掃方法と効率的な手順を指導し意識の高揚を図る。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	個人面接の充実	面接を学期ごとに一人2回以上（年間6回以上）行い、生徒の心情を把握し、生徒理解に努める。	B	1年間を通じた面接等の実施により、生徒の学校評価がかなり上昇した。	特に進路指導に関する個人面接について、保護者との意思疎通を図りつつ行う。
	交通安全指導の充実	登下校時のマナーや交通安全指導を通して、交通事故の防止に努める。	A	登下校時のマナーに問題はなく、大きな事故もなかった。	生徒が主体的に交通安全やマナーについて意識できるようにする。
	教育相談・特別支援教育の充実	教職員の連携と情報の共有を図り、特別なニーズを持つ生徒をはじめ多様な生徒一人一人を適切に支援する。	B	個別の指導計画や教育支援計画の見直しと作成により、生徒への支援の改善と検討をすることができた。	保護者や関係機関との連携を深めながら支援の改善と検討を行う。
進路指導	進路指導委員会の充実	進路指導委員会を全学年、年3回以上実施し、早期に適切な進路指導を行う。	B	計画通りに実施できたが、生徒及び保護者への情報発信に課題がみられた。	全校生徒及び保護者への情報提供、啓発を充実させる。
	進学・就職指導の充実	進学希望者の進学100%を目指す。	A	目標を達成することができた。	生徒の能力適性にあった進路指導を計画的に実施する。
		就職希望者の就職100%を目指す。	B	ほぼ目標を達成することができた。	仕事観・職業観の育成のために、進路指導計画の工夫と改善を図る。
特別活動	特別活動等の充実	1年間継続して部活動に取り組む生徒100%を目指す。	B	全員加入はしているが、活動内容や方法に差異が見られる。	毎日しっかりと取り組めるよう、活動方法を工夫する。
		学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身を鍛え、よりよい人間関係づくりを行う。	B	上級生や生徒会が中心となり、様々な活動が生徒主体で行われた。	さらに自主性を引き出しながら、生徒ひとりひとりに目を向ける。
人権・同和教育	人権・同和教育の充実	人権・同和教育ホームルームを充実させる。	B	各学年で十分に検討され、生徒の実情に応じた活動がなされた。	すべての教職員に研修の機会が与えられるよう年間計画を改善する。
		人権委員会活動、講演会、人権標語、人権ポスター等により、人権擁護の意識を高める。	C	講演など全体的な活動は充実したが、日常的な活動の充実が図られなかった。	人権だよりの発行や教室への資料の掲示など、人権委員会を積極的に活用する。
保健・安全管理	校内美化・環境整備の推進	適切な清掃配置を行い、巡視指導等により生徒一人一人の意識を高め、環境美化を図る。	C	巡視指導を行い少人数で効率よく作業する努力をした。	巡視指導と作業成果の評価を行い生徒の環境美化に対する意識の高揚を図る。
		生徒と教職員による芝生・校内作業を毎月実施する。	B	ほぼ予定通り実施し、ほとんどの生徒がまじめに取り組むことができた。	季節や天候を考慮しながら効率よく実施する。
	健康管理の充実	実践力につながる保健だよりを発行し、健康管理の徹底を図る。	B	発行時期に適した内容にすることで、疾病の予防を促すことができた。	明快で実践しやすい内容の保健だよりを作成し、情報発信の仕方を工夫する。
	安全管理の充実	防災避難訓練等により、安全管理能力の育成に努める。	A	火災、地震、津波、不審者対策の避難訓練を適切に実施した。	より効果的な防災避難訓練となるよう、検討し改善する。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。